

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①育成すべき資質・能力を明確にした授業づくりを行う。②1年英語科、3年数学科で少人数授業、3学年体育科でチーム・ティーチング授業を行う中で、指導方法を共有し授業改善を図る。③GIGAスクール構想2年目にあたり、資質・能力育成につながる授業のあり方について研修を進める。	①コロナ禍の現状の中ではあったが、主体的対話的で深い学びの実現を目指して資質能力をはぐくむ授業を進めることができた。②少人数授業では指導方法の共有や授業改善を行うことができた。③GIGAへの取り組みを学校全体の取り組みに広げていくことが今後の課題である。	A
道徳教育 人権教育	①道徳科では、学年会で指導内容を検討したり、ローテーション道徳を行ったりする中で、授業力向上を図り、自己を見つめて物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができる授業づくりを行う。②福祉委員会のエコキャップ回収などの活動を通して、助け合いの心を育む。	①道徳について年間計画に沿って意図的・計画的に実施することができた。担任だけが行うのではなくローテーションで実施するなど学校全体としての取り組みをすることで、広い視野考え方を持たせるよう工夫した。②委員会活動はコロナの影響もあり、十分な活動ではなかった。	A
健やかな体	①新体力テストの結果をもとに、一人ひとりが自分の体力をしり、体力向上に向けての目標を定め実践する。②食育「喫煙防止」「薬乱防止」などについての学習を実施し健全な体の育成を目指す。③SC等との連携のもとカウンセリングを充実させ心の健康を維持、向上させる。	①体育の授業を中心に一人ひとりの体力向上に向け、目標をもってと組ませることができた。②学校保健委員会や学年の状況に応じた保健教室を実施し生徒の意識を高めることができた。③SC・養護教諭、生徒指導部等の連携を密にすることができ、生徒の心を把握し、適切な対応に役立った。	A
自分づくり・キャリア教育	①1年の職業講話、2年の職場体験、3年で地域の方を面接官とした模擬面接等の活動を充実させ、3年間の見通しを持ったキャリア学習を推進する。②自分の将来について主体的に考え、適切な進路選択ができるよう、日常の相談活動を充実させる。	①3年間を見通した計画で進めているが、コロナの現状の中、工夫しての実施となった。今できることは何かカリキュラムデザインしていくことができたが、情勢の変化を見て、効果的な教育活動を実現していきたい。②進学だけでなく大きな意味での進路選択ができるよう指導していきたい。	B
いじめへの対応	①毎月学校生活アンケートを確実に実施し、いじめの未然防止に努めるとともにYPAアセスメントを活用し生徒の実態の把握に努める。また、SC、SSW等、専門職や外部機関との連携を進める。②いじめ防止対策推進委員会を毎月開催し、点検を行い未然防止や問題解決に組織的に取り組む体制を築く。	①学校生活アンケートやYPを活用して、いじめの未然防止に努めた。また、関係諸機関との連携を積極的にに行い、指導や生徒理解に役立てることができた。②防止対策委員会をはじめ、全教職員での情報共有がなされ適切な対応をすることができた。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①中堅教員を中心としたメンターチームを設置し、OJTにより若い教職員の人材育成と中堅リーダーの育成を行う。②勤務のあり方や部活動のあり方などについて働き方改革、ワークライフバランスの視点から見直しを行う。	①子育て世代の増加により時間的な余裕がなくなった。互いに授業を見合ったり、具体の活動の中での学びにより中堅リーダーを育成しようとしたが、十分ではなかった。②多くの職員が働き方改革を意識して業務に取り組んだが、職員によって偏りが称している状況がある。	B
特別支援教育	①特別支援コーディネーターを中心に特別支援教室活用の充実など、校内体制を整備し特別支援教育に組織的に取り組む。②ユニバーサルデザインに関する研修を進めるなど、すべての教育活動において特別支援教育の視点に立った個に応じた適切な指導を行う。	①特別支援教室で多くの職員が配慮が必要な生徒にかかわる体制ができ、成果をあげている。確実に職員の意識が高まっているので、個に合わせた指導のあり方についてさらに研修し組織的な取り組みを行いたい。②UDを意識した教育活動について、さらに意識して取り組む必要がある。	A
児童生徒指導	①長期休業後に生徒と各担任による教育相談を実施し、生徒理解と信頼関係づくりに努める。また、毎月末に生活調査を実施し、教職員が適切なアドバイスを行う。②不登校生徒に対して特別支援教室を活用し、養護教諭・カウンセラーと協力しながら、生徒の社会的自立に向けて支援する。	①教育相談活動を計画的に行うことができた。また、毎月の生活調査から、いじめ案件など生徒指導上の問題に気づき、適切な指導に役立てることができた。②特別支援教室を組織的に運営し、養護教諭、SC、SSW等との協働のもと、生徒の支援を行うことができた。	A
ESD/SDGs	①祭礼への吹奏楽部の参加、シニアサロンへの福祉委員の参加など、地域との交流を通して地域に支え、支えられている関係を体験し、将来地域に貢献できる人材を育成する。②3年間の系統的な平和学習を通じ身近な平和について考え、平等・公正の資質を養う。	①地域行事等への参加を通して、持続可能な地域活動における中学生の役割について学ばせる狙いだったが、コロナによる縮小で十分な活動ができなかった。②3年間の系統的な平和学習の流れを構築できた。	B
地域学校協働活動	①学校運営協議会にPTA役員や生徒会役員などが参加し地域行事への生徒の参画について協議したり、キャリア教育や学校行事への地域の援助をお願いするなど、持続可能な関係の構築を目指す。②学校・地域コーディネーター、地域学校協働本部の設置を目指す。	①学校運営協議会へのPTA役員・生徒会役員の出席し、学校と地域との連携をとることができたが、地域活動や学校行事がコロナにより、十分な形で実施ができなかった。②学校・地域コーディネーターの候補者が見つからず設置を見送った。	B
ブロック内評価後の 気づき	・小中一貫教育推進ブロック授業研では、ブロックで目指す設定し、活発な意見交流をすることができた。 ・ブロック専任会では、児童生徒の状況把握について連携し、兄弟姉妹の家庭での状況把握に役立った。 ・子ども会議で提案された、挨拶運動がそれぞれの学校で定着し安心して生活できる学校づくりに役立っている。 ・今年度、児童生徒交流日のあり方について再検討を行った。合唱の鑑賞や、部活動体験を行ったが、さらに小中学生が交流できるものにしていきたい。		
学校関係者 評価	・生徒は落ち着いた学校生活を送っており、挨拶もできており安心してしている。 ・地域行事への生徒の参加が十分にできなかったが、今後普通の開催状況になったとき、中学生の参加を期待している。 ・5年前から行われているSR(特別支援教室)の取り組みは他にない素晴らしい取り組みだと思う。今後も充実させて、個に応じた指導が必要な生徒や不登校生徒に対する指導を充実させてほしい。		
中期取組 目標 振り返り	・コロナにより従前と同じ教育活動ができない中、工夫をして活動を充実させることを通じて教職員の意識が高まり、学校運営への参画意識が高まった。 ・生徒の地域活動での活動への参加は社会情勢の中十分にはできなかったが、年度後半になり少しずつ戻ってきた活動に参加することができた。オアシス活動の復活など次年度、多くの活動を戻していきたい。 ・本年度課題となった、GIGAへの取り組みや人材育成に力を入れて取り組んでいきたい。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①育成すべき資質・能力を明確にした授業づくりを行う。②1年英語科、3年数学科で少人数授業、3学年体育科でチーム・ティーチング授業を行う中で、指導方法を共有し授業改善を図る。③GIGAスクールを進めため、3年計画でプロジェクタ等の購入を進め、環境を整備して適切な授業を行う。		
道徳教育 人権教育	①道徳科では、学年会で指導内容を検討したり、ローテーション道徳を行ったりする中で、授業力向上を図り、自己を見つめて物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができる授業づくりを行う。②福祉委員会のエコキャップ回収などの活動を通して、助け合いの心を育む。		
健やかな体	①新体力テストの結果をもとに、一人ひとりが自分の体力をしり、体力向上に向けての目標を定め実践する。②食育「喫煙防止」「薬乱防止」などについての学習を実施し健全な体の育成を目指す。③SC等との連携のもとカウンセリングを充実させ心の健康を維持、向上させる。		
自分づくり・キャリア教育	①1年の職業講話、2年の職場体験、3年で地域の方を面接官とした模擬面接等の活動を充実させ、3年間の見通しを持ったキャリア学習のあり方について再構築を行う。②自分の将来について主体的に考え、適切な進路選択ができるよう、日常の相談活動を充実させる。		
いじめへの対応	①毎月学校生活アンケートを確実に実施し、いじめの未然防止に努めるとともにYPAアセスメントを活用し生徒の実態の把握に努める。また、SC、SSW等、専門職や外部機関との連携を進める。②いじめ防止対策推進委員会を毎月開催し、点検を行い未然防止や問題解決に組織的に取り組む体制を築く。		
人材育成・組織運営(働き方)	①中堅教員を中心としたメンターチームを設置し、OJTにより若い教職員の人材育成と中堅リーダーの育成を行うとともに、評価のあり方などについての研修を行い教員としての資質を高める。②勤務のあり方や部活動のあり方などについて働き方改革、ワークライフバランスの視点から見直しを行う。		
特別支援教育	①特別支援コーディネーターを中心に特別支援教室活用の充実など、校内体制を整備し特別支援教育に組織的に取り組む。②ユニバーサルデザインに関する研修を進めるなど、すべての教育活動において特別支援教育の視点に立った個に応じた適切な指導を行う。		
児童生徒指導	①長期休業後に生徒と各担任による教育相談を実施し、生徒理解と信頼関係づくりに努める。また、毎月末に生活調査を実施し、教職員が適切なアドバイスを行う。②不登校生徒に対して特別支援教室を活用し、養護教諭・カウンセラーと協力しながら、生徒の社会的自立に向けて支援する。		
ESD/SDGs	①祭礼への吹奏楽部の参加、シニアサロンへの福祉委員の参加など、地域との交流を通して地域に支え、支えられている関係を体験し、将来地域に貢献できる人材を育成する。②保健美化委員、福祉委員の活動を通して、持続可能な社会のあり方について生徒の意識を高める。		
地域学校協働活動	①学校運営協議会にPTA役員や生徒会役員などが参加し地域行事への生徒の参画について協議したり、キャリア教育や学校行事への地域の援助をお願いするなど、持続可能な関係の構築を目指す。②学校・地域コーディネーター、地域学校協働本部の設置を目指す。		
ブロック内 評価後の 気づき			
学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
道徳教育 人権教育	c2		
健やかな体	c3		
自分づくり・キャリア教育	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	c7		
児童生徒指導	c8		
ESD/SDGs	c9		
地域学校協働活動	c10		
ブロック内 評価後の 気づき			
学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り			